

## 園内のみどころ



## ① 旭橋と旭門(大手)、樹形石垣

生駒時代は桜の馬場の南に大手門がありましたが、元文は寛文11年(1671)頃、松平家が行った城の改修工事により設けられた新しい大手門です。門に対し斜め上に立つ想島は敵に横方向から攻撃できる構造となっています。敵の進入を防ぎます。欄干の親柱には松平家12代の主徳川吉伯爵の「想島」と昭夫人による「あさひ」の文字が彫られています。組入をするとこどりにある石垣は、攻め込んだ敵を包囲するためのもので大石の積み重ねが見られるものを圧します。地形の北側面には奥門があり、南側には太鼓御門がありました。



5 陳列館

築城から現代までの年表、高松城や歴代藩主などに関する文化財や資料、古写真等を展示しています。国宝詩歌「藤原佐理書(複製)」、高松城天守模型、高松城天守越(複製)高さ約2m、高松城下囲屏風を参考に作成した高松城、城下町模型、取壊し前の高松城天守を含む明治15年撮影の高松城周辺の写真(平成17年、英国ケンブリッジ大学図書館で発見)、元治城・高松城妹妹姫親組式大典(昭和40年)、水戸市・高松市親善都市提携印式(昭和49年)等の展示を行っています。



良櫻(旧太鼓櫻跡)

35年8月29日 重要文化財機密1

會はもともと東の丸の北東の隅(現在の県民会館敷地内)にあった檜で、東北の方角を寅寅ことからこの名前があります。完成は延宝5年(1677年)といわれ、月見櫓と同時期につくられました。三重三層・八入屋造・本瓦葺で、形は月見塔ですが、初重には大鳥な平破風がある特徴です。昭和40年に当時の所有者であつた駒谷より高松市が譲り受け、2年の歳月をかけて、東の丸より丹波櫻塀に移築されました。



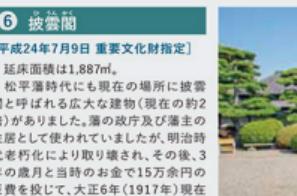
### ③ 横の馬場

生駒家時代には南端に大手門があり、広場には政を行う對園所等がありました。松平家時代改修によりこれらの施設はなくなり馬場になったうえです。現在は桜が植えられ、お花見の場として市民に親しまれています。



④ 檻御門

三の丸入口の櫓門で昭和20年(1945年)の米軍による高松空襲で焼失しましたが、令和4年(2022年)7月、77年ぶりに復元され蘇りました。復元には、古写真と磁石に残る柱跡等が有力な手掛かりになりました。門に付けられた幕は白麻地に紺色の桜紋他3種類あり行事により付け替えます。



## ⑥ 披雲閣

平成24年7月9日 重要文化

延床面積は1,887m<sup>2</sup>。松平藩時代でも現在の場所に披雲閣と呼ばれる広大な建物(現在の約2倍)がありました。藩の政庁及び藩主の居所として使われてきましたが、明治時代老朽化により取り壊され、その後、3つの歳月と当時のお金で15万余円の費用を投じて、大正6年(1917年)現在の披雲閣が完成しました。披雲閣には12畳敷きの武家間にはじめ、横の間、間、幕鉄の間など雅致を生かした部屋があり、波の間に、昭和天皇、皇后御内帑が宿泊されました。第2次世界大戦では松平領主の旗印を接收されていますが、高松市が譲り受けたからです。現在は会議室、茶室、華麗などに利用されています。



卷(諸事小路毛穴)上松雨空

**松平家**と茶道三家のひとつ武者小路千家は、始祖宗守が高松平頼重に茶頭として仕えて以来、茶の湯を通じて今日も強く結んでいます。松平家が所有する表徳茶碗「木手不」は、千利休が作らせた歴代の武者小路千家当主が「宗守」を襲名する披露茶会には必ずされ、そのときには武者小路千家から松平家に、拜啓の使者が立ります。

## 内案内図

